



## 富士養鱒場管内のコロナ禍の影響について (令和2年度上半期)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は当場が支援する養鱒業者や河川漁協においても、大小様々な影響や変化があったと見聞きしています。そこで、令和2年度の上半期、10月までの関係業界の状況について、関係者からのヒアリング結果を交え備忘録として本記事に記します。

### 【養鱒業】

養鱒業は富士養鱒漁協の出荷の視点から見えます。

まず、富士養鱒漁協の鮮魚の出荷は、レギュラー魚（100-150g）と大型魚（2-3kg）に大別されます。レギュラー魚は各地の消費地市場へ出荷され量販店等小売店に向けられます。大型魚はレギュラー魚同様市場出荷される他、宅配等での直接販売もあり、飲食店やホテル・冠婚業等で利用されます。

### ●レギュラー魚

レギュラー魚の鮮魚出荷は、例年3月から本格化し5月のGW、8月の盆にピークがあり9月以降は減少します。今年も例年同様の動向を示しましたが、移動自粛要請等による内食需要の高まりで量販店向けの引き合いが強いまま推移しました。

ただ、同じ淡水魚の養殖アユが旅館等観光向けの需要が激減したため低単価で市場に流れ込んだことで、ニジマス単価もアユに引きずられ下がりました。また、COVID-19とは無関係ですが、今年は梅雨が長引き7月末まで長雨だったことで活

魚の流通が停滞し、その分が漁協の鮮魚出荷へ回ったことで漁協の鮮魚取扱量が多く、意図的に価格を下げ出荷量の確保を優先した面もありました。

富士養鱒漁協のR2年4月から10月までのレギュラー魚出荷量の累計は199トンでした。前年（R1）比では145%（137トン）で好調だったと見えます。しかし、前年（R1）、前々年（H30）は生産不調が原因の大きな減少が起きており比較には不適なことから、生産不調が無かった3年前（H29）と比較すると、H29の4-10月の出荷量累計は202トンでH29比は99%でした。出荷量・単価のH29比の月別推移（図1）を見ると、出荷量は6月まではH29を下回りましたが、一転7月以降は上回っていて、経済活動が再開した6月を境に状況が変わったことがわかります。単価は先述の要因もあり、低いまま推移しました。

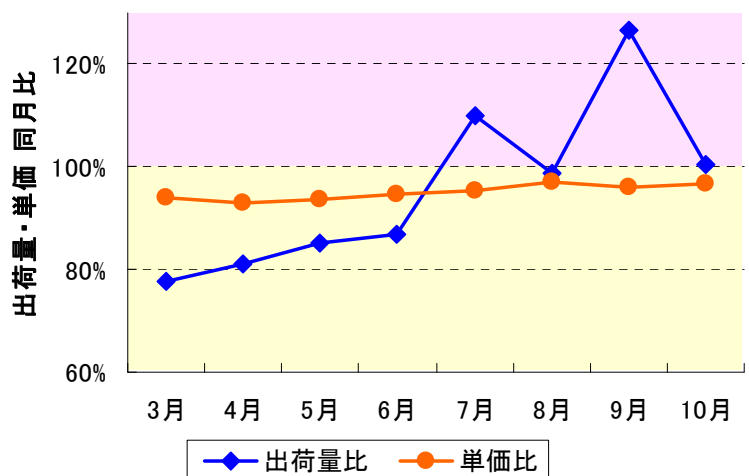


図1 レギュラー魚の出荷状況（H29年との比較）

今年も活魚からの流入分もあり、単月では過去比で増減は見られましたが、上半期を通して見れば出荷量に大きな減少は無く COVID-19 の影響は少なかったと考えられます。

●大型魚

大型魚、特に富士養鱒漁協の大型ブランドニジマス紅富士（あかふじ）では大きな影響がありました。外出制限がはじまった3月から注文数が減りはじめ、3、4、5月には出荷量が前年同月比で79%、21%、25%と大幅に減少しました。緊急事態宣言が解除された6月以降も完全に回復することなく、10月まで各月とも前年同月比70%程度で推移しました(図2)。状況は出荷先地域によって異なり、東京・横浜等首都圏向けは6月以降の回復は早く8月にはほぼ前年並みに戻ったものの、静岡県内や宅配（直販）の回復は鈍く未だ回復できていません。紅富士は取組開始以来、毎年出荷量を伸ばしていて、増産が出荷増に追いつかない状況です。今春の出荷ブレーキに当初は『飼育状況の適正化に好影響』とポジティブに受け入れていましたが、出荷魚の平均体重は徐々に大きくなっており、現状が長期化すれば池在庫の管理で生産者の負担が大きくなりそうです。

●活魚

ニジマスは鮮魚の他、管理釣堀等に向けた活魚出荷も行われます。その活魚も夏まで苦しい状況でした。5月のGWは緊急事態宣言に重なり、その後も移動自粛要請が続くなどレジャーへの制限で活魚の動きはかなり鈍いものでした。加えて、梅雨の長雨で状況は大変厳しく、先述のとおり富士養鱒漁協管内では活魚向けの一部が鮮魚として出荷された他、他県でも本来活魚向けの魚が市場へ流れたと聞こえました。ただ、今年の夏は『「3密」を避けられる』からと釣りやキャンプ等の屋外レジャーが盛り上がり、梅雨明けした8月以降は急激に活魚の流通が活発化して一部では魚が不足、10月に入っても好調が続いているようです。ちなみに、富士養鱒場の観覧者数は、観覧業務を一時休止(4/18-5/13)

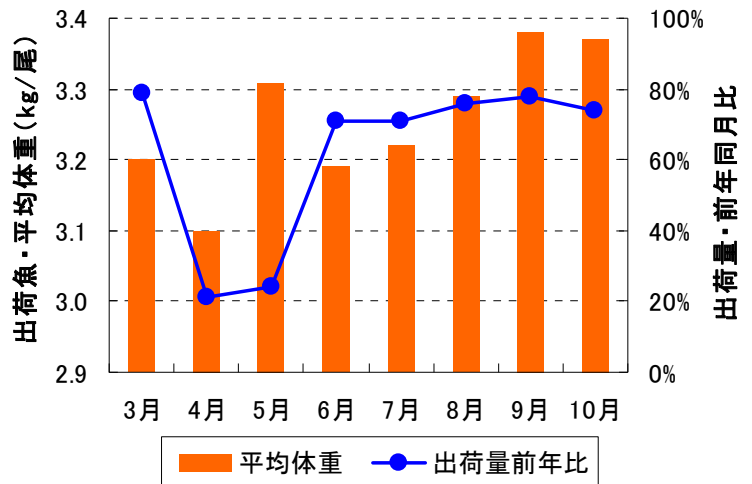


図2 大型魚(紅富士)の出荷状況 (前年との出荷量比較、今年の平均体重の推移)

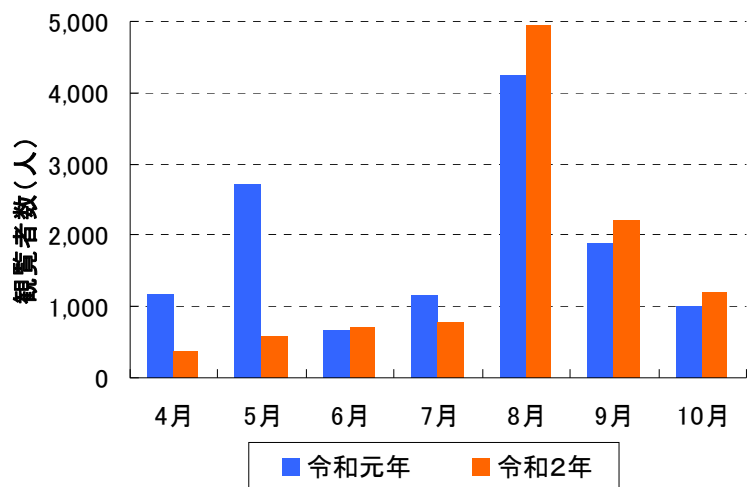


図3 富士養鱒場の観覧者数 (前年との比較)

した4、5月は大幅に減りましたが、6、8、9、10月は前年同月比で100%を超えていて、今夏の屋外レジャーの伸びの一端が感じられます(図3)。

【内水面漁業・内水面漁協】

内水面漁業はアユの遊漁の視点から見てみます。

まず、県内のアユ遊漁の解禁日は、興津川5月21日、狩野川5月25日で先行する他は、ほとんどが6月1日です(一部6/1以降もあり)。先行の2漁協では、解禁日を6月1日に遅らせました。判断の時期が緊急事態宣言中であったことや、先行解禁で遊漁者が集中することへの懸念があったものと思われます。

次に、アユ遊漁では管轄の漁協の遊漁券(日券・年券)の購入が必要ですが、解禁前から販

売される年券の売上状況は例年と変わらず、6月の遊漁者数は例年に比べ若干少ない程度でした。しかし、7月以降は長雨のため COVID-19とは関係なく遊漁者の来訪にブレーキがかかり、遊漁券の売上は年券・日券とも大幅に減りました。8月以降は好天ながら川の中でも熱中症を起こすほどの高気温が続き遊漁者は戻らず、9月は先の長雨の影響で釣果が不良と、内水面漁協には大変厳しい夏でした。各漁協では秋口に緊急で成魚放流を行って釣果や遊漁者数の回復は見られましたが、それを含めても今期の収支は大変厳しいことが予想されます。

この他、遊漁券やオトリ鮎の販売現場では、遠方から来訪する遊漁者との接触機会を減らすためセルフサービスが導入されたといった変化も聞かれました。『釣りは密にならない』と川への来訪をPRする一方、現場では遊漁者との接触を避ける取り組みがされており、遊漁が行わ

れる場所が中山間地域であり、そうした地域が都市部に比べ医療の充実等の面から COVID-19感染のリスクが高いため、遊漁者に『来てもらいたい』のか『来てもらいたくないのか』、関係者の苦悩が感じられます。

### 【最後に】

10月を過ぎてニジマス鮮魚出荷やアユ遊漁の最盛期が終わって、『今年をなんとか乗り切ることができた』といった雰囲気があります。ただ、養鱒業ではレギュラー魚の最盛期は過ぎたものの、大型魚は秋以降も出荷は続くため、11月以降も心配は尽きません。11月には第3波が起きており、年末年始に向け再び行動制限が行われることが危惧されます。

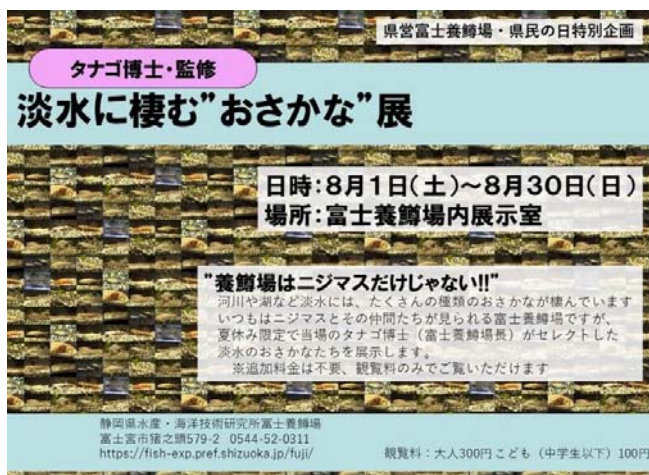
来春には今期下半期、11月以降の状況についてまとめたいと思います。（佐藤孝幸）

## トピックス

### 夏休み特別展示を行いました

会場では、ニジマスに親しんでもらうために、県民の日に合わせ特別企画を開催しており、今年も8月2日～30日に「夏休み特別展示」を、8月21日に「観覧施設の無料開放」を行いました。今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のためタッチプールは行いませんでしたが、ニジマスの発眼卵や稚魚展示のほか、「淡水に棲む”おさかな”展」と題したナゴ類を中心にウナギやサワガニなどの展示を行いました。さらに、あ

まり見ることの出来ないタイリクバラタナゴとアブラボテの卵・ふ化仔魚についても展示しました。また、今年初めての取組として、採卵作業やふ化稚魚の様子を、QRコードを用いて動画で見ただけできるようにしたところ、来場していただいた皆さんに楽しんでもらえたようでした。来年の企画では、来場者の皆様にもっと楽しんで貰えるように、新しい生活様式の中で工夫を重ねていきます。（松山 創）



企画展ポスター



水槽展示の様子

## (お知らせ) 冷水病に使用可能な抗菌剤が追加されました

令和2年9月に、にしん目魚類(淡水)の細菌性冷水病を対象とする抗菌剤に、新たに共立製薬株式会社が製造するフロルフェニコール製剤の商品名『水産用フロルフェニコール2%液「KS」』が追加承認されました。

これまで、にしん目魚類(淡水)で細菌性冷水病に使用できる抗菌剤は、ニジマスに限ってスルフィソゾール製剤(商品名『イスランソーダ』)のみでしたので、ニジマスでは2種類に増え、アマゴやイワナ等では初めての承認抗菌剤となります。

ただし、今回の追加承認は全てのフロルフェニコール製剤での効能拡大ではなく、共立製薬の『水産用フロルフェニコール2%液「KS」』に限った承認ですので、他社のフロルフェニコール製剤は引き続きニジマス以外の魚種では使用できません。購入・使用の際にはご注意ください。また、購入には当該商品名を記した水産用抗菌剤使用指導書が必要ですので、指導書の申請は富士養鱒場へご相談ください。

(池田卓摩)

医薬品に関する最新の詳細情報は、農林水産省動物医薬品検査所の『動物用医薬品等データベース』(<https://www.vm.nval.go.jp/>)で確認できます



## 富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量(降水日数) : mm (日)		湧水量 : 万 t / 日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
8	58 (8)	290 (14)	15.31	7.18
9	307 (17)	416 (12)	9.68	8.34
10	216 (8)	275 (11)	7.26	8.69

\* 前年以前の20年間平均値

## 日誌

令和2年8月	令和2年9月	令和2年10月
毎週火曜 沼津駐在(隔週観測)	毎週火曜 沼津駐在(隔週観測)	毎週火曜 沼津駐在(隔週観測)
7日 業務連絡会分場長会議(焼津)	2日 業務連絡会分場長会議(Web)	1-2日 東海北陸内水面地域合同検討会(福井)
18日 バイテク魚作出指導(場内)	8日 GAP指導者養成研修(静岡)	2日 業務連絡会分場長会議(焼津)
20日 普及月例会(焼津)	11日 紅富士生産体制強化会議(市内)	6日 北海道内水試視察対応(市内)
21日 県民の日無料開放(場内)	17日 普及月例会(焼津)	13日 多自然川づくり事例発表会(Web)
25日 バイテク魚作出指導(場内)	18日 養鱒業若手研修会(市内)	14日 普及月例会(焼津)
25日 スマート流通現場巡回(市内)	25日 漁業士会役員会(静岡)	20日 ニジマス生産者会議(市内)
26日 水の循環研究会(Web)	28日 県かん水協会役員会(沼津)	20日 水の循環研究会(Web)
27日 技術連絡協議会(下田)	29日 スマート流通現場施工(市内)	23日 にじます祭実行委員会(市内)
28日 しずおか認証現地審査(市内)	<視察見学対応>	27日 バイテク魚作出指導(場内)
	4日 富士宮市黒田小(90名)	28日 バイテク魚作出指導(場内)
	4日 富士宮市富士根南小(196名)	<視察見学対応>
		2日 富士宮市大富士小(163名)
		14日 焼津水産高校(27名)
		27日 函南町西小(89名)
		28日 漁業高等学園(20名)
		29日 浜松市横山小(8名)
		30日 裾野市深良小出前授業